

# 技術・家庭科部会

## 1 研究テーマ

学習指導要領に即した教材研究

## 2 研究テーマについて

平成24年度より新学習指導要領が全面実施となり、技術分野・家庭科分野ともに4つの内容構成となった。学習指導要領では、自分のこれからの生活を見通し、よりよい生活を創造するとともに、社会の変化に主体的に対応する能力の育成に励むことを必要としている。したがって、授業内容や教材を工夫し、より社会の変化に主体的に対応できる力を身に付かせることが必要と考える。

## 3 研究経過

- |           |             |                                  |
|-----------|-------------|----------------------------------|
| 5月10日（水）  | 高洲中学校       | 研究テーマ設定と年間研修計画の立案                |
| 6月21日（水）  | 美浜中学校       | 技術領域：年間計画と指導内容の確認                |
|           | 美浜中学校       | 家庭領域：教材研究                        |
| 10月18日（水） | 美浜中学校       | 技術領域：授業の進め方の検討                   |
|           | 高洲北小学校      | 家庭領域：小中連携教材研究                    |
| 1月17日（水）  | 千葉県立現代産業科学館 |                                  |
|           |             | 技術領域・家庭領域：第29回五市中学校合同技術・家庭科作品展見学 |
| 2月7日（水）   | 美浜中学校       | まとめと課題                           |

## 4 研究概要

### 技術分野

学習指導要領の内容は、材料と加工、エネルギー変換、生物育成、情報の4つの分野が必修である。今年度は、各学校の年間指導計画と4つの分野における学習内容を見直し、平成32年度関ブロ発表と平成30年より施行される新学習指導要領に向けて、授業の進め方や教材について検討を進めた。各学校で使用して資料や出版されている資料を活用し、研修を進めた。

### 家庭分野

学習指導要領の内容から、家族・家庭と子どもの成長、食生活と自立、衣生活・住生活と自立、身近な消費生活環境において、小・中学校連携の学習内容を踏まえて、今年度家庭科では、衣生活・住生活と自立の教材研究を行った。

### 技術科

#### 10月

各学校の授業の進め方と教材について情報交換を行った。授業では、話し合い活動を分野ごとにどのような場面で活用しているか、情報を交換し、適切か

どうかを検討した。教材については、指導内容についても細かく情報交換をして、次年度に向けて検討した。特に生物育成分野については、関ブロ発表に向けて教材や指導内容について情報交換し、次年度に向けて検討した。

## 1月

五市合同技術・家庭科作品展の見学をした。他市の作品から教材開発のヒントを得ることができ、作品の仕上げについても参考にすることができた。見学後、2月に行われる木工工作作品展の出品について検討し、五市作品展の作品を出品することに決まった。

## 2月

次年度に向けて、教材開発のためトップマンの方に教材を紹介してもらった。内容は、生物育成と情報についてで、生物育成ではきのこを育成する「きのこっぷ」という教材である。この教材は、10月～2月に日照時間に関係なく育成することができ、失敗も少ない。しかし、手入れに関してはやることが少ない。栽培場所や日照時間が確保できない環境では、育てやすい教材だった。情報では、「コロロボ」という計測と制御の学習ができる教材を紹介してもらった。この教材では、はんだづけから製作することも完成品からでもプログラミングが学習できる。ソフトは、ディスクからダウンロードすることができ、目覚まし時計のアラーム音を自作できたり、ライトの色を変えて光らせたりすることができる。また、グループ学習で複数台を組み合わせてライトを光らせるタイミングを変えて一つの作品に仕上げることもできる。計測と制御を学習するには、良い教材であった。

## 家庭科

### 10月

学習指導要領に『小学校の内容との体系化を図る』とあることから、実際に小学校の家庭科室の施設見学を行った。また、小学校の担当教諭から話を聞き、小学校でどのような教材を取り扱っているのか、取り組みはどうか、どの程度の技能を持っているかなどを小学校の教科書や児童の作品を見て、様々な角度から話し合いを行った。



小学校の教科書とガラス鍋



小学生の作品

## 1 月

五市合同技術・家庭科作品展の見学をした。作品の傾向として、家庭科の作品では、1年・2年・3年を通して、バックの作品が多く、刺しゅうやフェルト、スパンコールなどをつけて装飾した作品が製作されている。衣服を扱う作品が減少傾向にある。

## 2 月

衣生活と住生活の自立として、バックや巾着袋のアレンジに用いることができるスウェーデン刺繍を行った。繰り返しの作業であるため、刺し方に慣れると作業が進みやすい傾向にある。刺しゅうの絵柄ができ始めると、お互いに作品を見せ合うことができ、楽しくなってきた。

## 5 今後の課題

技術分野においては、年間指導計画と指導内容の検討をした。年間指導計画では、1年生で材料と加工、2年生でエネルギー変換を行う以外は、各学校で指導する時期が異なっていた。指導内容では、重点を置いて指導している内容が、「言語活動」や「製作品の設計」、「課題解決」と各学校で特色があった。各学校での状況を情報共有ができた。次年度より平成32年度関ブロ発表に備えて、生物育成の教材研究を支部で進めようと確認した。また、生物育成の技術の見方・考え方を働かせた実践的・体験的な活動を考慮した資料の共有をはかり、教材研究をすることができた。

課題としては、どのような研究を進めていくか検討したが、具体的な案がまとまらなかった。また、学習指導要領の改訂に向けても情報の共有が足りなかった。次の関ブロにむけた研究方針を早急に固めることが課題である。

家庭分野においては、授業内で用いることのできる教材の選定ができたこと、ならびに、小・中学校連携として学習内容を改めて確認することができた。限られた時数の中で、家庭生活に活かせる教材の選定をどのようにしたらよいかについて検討できた。また、裁縫の教材研究として、スウェーデン刺繍を行ったことで新たな作品のアレンジ方法を知ることができ、裁縫の技術を高めることもできた。

課題としては、調理実習や作品製作において、効果的なICT機器の活用方法を研究していきたい。